

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム インドネシア大学スプリングスクール
代表者名	国際高等教育院 河合淳子 学際融合教育研究推進センター 西島薫
事業概要 (600字程度)	<p>多文化共学短期留学プログラムは、京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）と国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターが合同で実施してきたプログラムである。多文化共学短期留学プログラムは、アジアと日本の相互理解の促進と互いに共通の課題の発見・解決を目指すことを目的としたプログラムである。本プログラムは例年、2週間の間、インドネシア大学との交流協定に基づき、現地に本学学生を派遣し対面で実施してきた。しかし、本年度は新型コロナウイルス拡大の影響のため、オンラインで短期派遣プログラムを実施した。本プログラムの参加学生はインドネシア大学の担当教員の全面的な協力の下で、インドネシア語学習、インドネシア大学の講義聴講、インドネシア文化体験、インドネシア大学学生との共同学習に参加した。本プログラム終了後にはインドネシア語能力のさらなる向上を目的として本学留学生によるオンラインでの語学授業を開催した。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>本プログラムには3名（文学部2名、法学部1名）の本学学生が参加した。インドネシア大学が提供するインドネシア語授業は、おもにプログラム期間の午前中に実施された。実践的なインドネシア語を学習した。さらに参加学生たちは、プログラムの最後にはインドネシア語テストによって、プログラム期間中の学生成果を振り返った。</p> <p>本プログラムでは、インドネシア文化体験としてオンライン上での都市訪問とインドネシア料理体験を実施した。オンラインでの都市訪問ではインドネシアの古都であるジョグジャカルタを現地ガイドの案内の下訪問した。現地ガイドの説明や質疑応答を通じて、参加学生たちはジョグジャカルタの街並みや現地の人々の生活に関する深い理解を得ることができた。また文化体験ではオンラインでのインドネシアの料理体験をおこなった。講師の指導の下で事前に準備した食材を使用しインドネシア料理を作り食べる過程を経験することで、インドネシア文化をじっさいに体験することができた。</p> <p>さらに本学学生はインドネシア大学の学生との共同学習をおこなった。共同学習ではインドネシア大学学生と本学学生とから構成されるグループでの合同発表をおこなった。プログラム期間中に合同発表の準備時間を設け、インドネシア大学学生と本学学生は討論を重ねるだけでなく、交流を深めることができた。さらにインドネシア大学でのプログラム終了後には本学の留学生による語学学習を設け、さらなるインドネシア語能力の向上を図った。本プログラムの実施を通じて、参加学生たちはインドネシアの言語や文化に関する知識を習得するだけでなく、インドネシア大学学生との交流を深化させることで、インドネシアへのさらなる興味・関心を育むことができた。国際的な人の移動が制限されている状況下で、学生間の国際交流を促進することができたことは、本プログラムの大きな成果であると言える。</p>